

評価実施 平成 31 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)							
事務事業名		No.	道路補修事業		所属部	都市整備部	所属課	道路交通課	
政策名		No.	7 都市基盤		所属係	整備係	課長名	町田孝弘	
施策名		No.	基本施策20 道路の整備と適正管理		裁量性	裁量性が大きい事業			
予算科目		余計	款	項	目	事業コード	法令根拠	道路法	
	一般	8	2	3	0	1 3 8 1 0 0			
事業期間		単年度のみ			単年度繰返	期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)			
事務事業の概要									
事業の具体的な手順及び詳細(期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・市道の大規模補修・改良工事の実施					この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか) ・道路法の適用を受ける「道路法上の道路」を道路法の規定に基づき、維持・修繕している。				
					活動実績及び事業計画 平成30年度の実績(平成30年度に行った主な活動を具体的に記載) ・請負工事件数 : 7件 ・業務委託件数 : 8件 ※工事・委託の一部案件に道路補修事業と南部地域整備事業の同一発注案件がある。 平成31年度の事業計画(平成31年度に計画している主な活動を具体的に記載) ・請負工事件数 : 6件 ・業務委託件数 : 6件				
1 現状把握の部(PLAN)(DO)									
(1) 事務事業の目的									
この事業を実施する背景・課題等(なぜこの事業を行うのか) ・市内の道路状況は、全般的に経年劣化により道路舗装等老朽化が進み、多くの市民から道路が著しく傷んでいることから水たまりや舗装の段差による振動等の苦情が寄せられている現状です。 このことから、道路利用者が安心安全に道路を快適に利用できるよう道路管理者として道路補修を行う必要が出てきています。 事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する) ・道路を利用する市民									
この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道すじ(裁量性の大きい事業のみ記載) ・市道の道路補修を行うことで都市基盤が整備され市民がより住みやすい環境になることから政策の成果向上となります。									
(2) 各指標等の推移									
項目	名称	単位	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)(A)	平成30年度 (決算見込み)(B)	平成31年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	橋梁の架替え	ア 箇所	0	0	0	0	0		0
	舗装補修路線延長	イ m	1378	934	1918	1910	1582		-8
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	橋梁の架替え	ア 箇所	0	0	0	0	0		0
	舗装補修路線延長	イ m	1378	934	1918	1910	1582		-8
③ 成果指標 (事務事業の達成度を表す指標)	老朽化への苦情件数	ア 件	20	0	0	0	0		0
	舗装補修路線延長	イ m	1378	934	1918	1910	1582		-8
④ 上位成果指標 (施策の達成度を表す指標)	都市基盤が整備され住みやすい環境であると感じる市民	ア %							0
		イ							0
(3) 事務事業コストの推移									
項目	単位	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)(A)	平成30年度 (決算見込み)(B)	平成31年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)	
支出内訳	正規職員従事人数	人	2	3	3	3	3		
	延べ業務時間	時間	4,000	6,000	6,000	6,000	6,000	0	
	正規職員人件費計(C)	千円	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	0	
	再任用職員従事人数	人							
	延べ業務時間	時間						0	
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	
	嘱託職員従事人数	人							
	延べ業務時間	時間						0	
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	
	人に係るコスト計(F)	千円	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	0	
物に係るコスト	物件費	千円	52,678	19,737	56,166	28,470	39,948	-27,696	
	うち委託料	千円	52,162	19,639	55,832	28,365	39,840	-27,467	
	維持補修費	千円						0	
物に係るコスト計(G)		千円	52,678	19,737	56,166	28,470	39,948	0	
移転支的コスト	扶助費	千円						0	
	補助費等	千円						0	
	繰入金	千円						0	
	その他	千円						0	
移転支的コスト計(H)		千円	0	0	0	0	0	0	
その他	その他	千円						0	
	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	72,678	49,737	86,166	58,470	69,948	0	
収入内訳	国庫支出金	千円	15,708				7,558	0	
	都支支出金	千円	94,482	49,930	136,122	100,098	111,533	-36,024	
	分担金及び負担金	千円						0	
	使用料及び手数料	千円						0	
	繰入金	千円						0	
	その他	千円						0	
	収入計(J)		千円	110,190	49,930	136,122	100,098	119,091	0
	収支差額(K)=(J)-(I)		千円	37,512	193	49,956	41,628	49,143	0
一般財源投入割合		%	-52%	0%	-58%	-71%	-70%	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与 性 評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】	⇒3 改革・改善方向の部に反映
	なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	・市道の道路改修工事に関しては、道路管理者が事務を行うべきである。
	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】
有効性 評価	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	・舗装補修を進める路線では、L形側溝・道路集水溝・導水管も老朽化していることから同時に改修し、高齢者や障がい者等に安心安全で利用しやすい道路になる。道路を改修することで道路の陥没リスクが減ることとなる。
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	・道路は、経年により老朽化するものであり定期的な道路改修が必要であるため廃止及び休止は考えられない。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】
効率性 評価	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	・道路の改修は、道路管理者が行うもので継続的な予算の確保と市民の理解が必要である。
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】
	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	・著しく老朽化している道路については、道路路盤からの補修が必要となり事業費の削減は考えられない。経年劣化による舗装の表面が著しく破損している路線が増えていることから事業費削減はできない。
	さらなる歳入を確保できないか?	
公平性 評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	・工事の設計、補助金事務、施工管理、住民対応に関して年々内容が複雑化しており人件費の削減の余地はない。
⑦ 受益機会・費用負担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】	
事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	・道路を利用しない市民はいないので公平・公正である。	
事業の実施に当たり、ソーシャル・インクルージョンの理念を踏まえ、多様性への配慮はなされているか?		
<input checked="" type="checkbox"/> 適切に実施している。一部実施している ⇒【以下に理由(具体的な取組内容)を記入】 <input type="checkbox"/> 実施していない ⇒3 改革・改善方向の部に反映		
評価になじまない		
バリアフリー及びユニバーサルデザインを取り入れた整備を行う。		
この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか?)(裁量性の大きい事業のみ記載)		
・事業の対象者(市民)からは、道路の著しい老朽化により水たまりや段差による苦情が多く寄せられている。市の考えている道路改修事業では対象者とのギャップの閉塞は解消できない。		
この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか?(裁量性の大きい事業のみ記載)		
・道路の改修事業を行うことで多くの市民が安全安心に快適な道路利用ができることから公益の増進に役に立っている。		
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)		
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	・道路改修が必要な路線に対しては、計画的に事業を進めており、特に、市道の代表的な路線の富士見台第6号線(さくら通り)について約1.8kmの中間地点までの道路整備が済み、富士見台第6号線(さくら通り)を利用する市民からは喜ばれている。しかしながら、市民に直結する生活道路においては、経年劣化による老朽化が進み現在の予算では早急的な舗装状況の解消は期待できない。
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 平成30年度に道路、橋りょうにおける長期修繕計画を策定したことから、今後は周期的な計画性をもった道路改修を進めていきます。		コスト 削減 維持 増加 向上 〇 維持 × 低下 ×
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		
・特になし		
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?		
・道路は、経年劣化することから見直し廃止はない。継続的に道路改修が必要であるため最終的な目標達成はないと考えられる。		

評価実施 平成 31 年度	事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)																											
事務事業名	No. _____	南部地域整備事業	所属部	都市整備部	所属課	道路交通課																						
政策名	No. _____	7 都市基盤	所属係	整備係	課長名	町田孝弘																						
施策名	No. _____	基本施策20 道路の整備と適正管理	裁量性	裁量性が大きい事業																								
予算科目	<table border="1"> <tr><td>余計</td><td>8</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>8</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>一般</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	余計	8	2	3	0	1	3	8	2	0	0	一般											事業コード	法令根拠	道路法		
余計	8	2	3	0	1	3	8	2	0	0																		
一般																												
事業期間	単年度のみ	単年度繰返	期間限定複数年度	年度 ~ 年度)																								

事務事業の概要

事業の具体的な手順及び詳細(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

・平成26年8月に「国立市南部地域整備基本計画」が策定され整備方針が新たに示された。「国立市南部地域整備基本計画」の整備方針により、平成30年度から南部地域まちづくり課が道路用地取得のため窓口及び地権者との調整を行い、その後、道路交通課(管理係)にて用地取得に必要な業務を行う。道路用地取得がなされた後に道路拡幅に伴う設計と工事を道路交通課(整備係)で実施することとなります。

この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)

・これまで、南部地域においては、昭和59年8月に「国立市南部地域開発整備基本計画」に基づき、南部の都市基盤整備に取り組んできたが、平成26年8月に「国立市南部地域整備基本計画」が新たに策定されたことから整備方針に合わせた都市基盤整備を行っていき。

活動実績及び事業計画

平成30年度の実績(平成30年度に行った主な活動を具体的に記載)

・請負工事件数：1件
・業務委託件数：4件

※工事・委託の一部案件に道路補修事業と南部地域整備事業の同一発注案件がある。

平成31年度の事業計画(平成31年度に計画している主な活動を具体的に記載)

・請負工事件数：1件
・業務委託件数：5件

※委託の一部案件に道路補修事業と南部地域整備事業の同一発注案件がある。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的

この事業を実施する背景・課題等(なぜこの事業を行うのか)

・平成26年8月に「国立市南部地域整備基本計画」が策定され整備方針が新たに示された。南部地域の取組みの中に「都市基盤の整備」とあり10年間の優先整備路線の計画として6路線が上げられている。南部地域には、狹隘道路が多く人や自転車の通行に危険な箇所もあり道路の拡幅整備は長年に亘り懸念になっているため、計画的に進める必要があります。

事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する)

・道路を利用する市民

この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道すじ(裁量性の大きい事業のみ記載)

・南部地域の狹隘道路が整備されることで災害時の避難時困難地域の解消や公共交通の誘導に伴う交通不便地域の解消される。市民生活の利便性が向上されるということである。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)(A)	平成30年度(決算見込み)(B)	平成31年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 活動指標 <small>(事務事業の活動量を表す指標)</small>	南部地域の整備延長(拡幅のみ)	ア m							0
		イ							0
② 対象指標 <small>(対象の大きさを表す指標)</small>	南部地域の道路延長 国立市南部地域人口	ア m	29782	29782	29782	29782	29782		0
		イ 人	23000	23000	23000	23000	23000		0
③ 成果指標 <small>(事務事業の達成度を表す指標)</small>	整備延長(延べ)	ア m	2350	2700	2862	2902	3006		40
		イ							0
④ 上位成果指標 <small>(施策の達成度を表す指標)</small>		ア							0
		イ							0

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)(A)	平成30年度(決算見込み)(B)	平成31年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	
		正規模職員従事人数	人	2	3	3	3	3	
延べ業務時間	時間	4,000	6,000	6,000	6,000	6,000		0	
正規模職員人件費計(C)	千円	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000		0	
再任用職員従事人数	人							0	
延べ業務時間	時間							0	
再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0		0	
嘱託職員従事人数	人							0	
延べ業務時間	時間							0	
嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0		0	
人に係るコスト計(F)	千円	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000		0	
物に係るコスト	物件費	千円	2,095	7,282	9,407	13,724	21,000	4,317	
	うち委託料	千円	2,095	7,282	9,407	13,724	21,000	4,317	
	維持補修費	千円							0
物に係るコスト計(G)	千円	2,095	7,282	9,407	13,724	21,000		4,317	
移転支的コスト	扶助費	千円							0
	補助費等	千円							0
	繰入金	千円							0
	その他	千円							0
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0		0	
その他	千円							0	
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	22,095	37,282	39,407	43,724	51,000		4,317	
収入内訳	国庫支出金	千円							0
	都支支出金	千円	2,100	6,713	29,278	23,474	34,243		-5,804
	分担金及び負担金	千円							0
	使用料及び手数料	千円							0
	繰入金	千円							0
	その他	千円							0
収入計(J)	千円	2,100	6,713	29,278	23,474	34,243		-5,804	
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-19,995	-30,569	-10,129	-20,250	-16,757		-10,121	
一般財源投入割合	%	90%	82%	26%	46%	33%	#DIV/0!		

2 評価の部(CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 ・市の道路拡幅事業に関しては、国立市が事業を行うべきである。																
	② 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 ・「国立市南部地域整備基本計画」の優先整備路線を計画的進めることができる場合に成果向上につながる。																
有効性評価	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 ・狹隘道路の拡幅は、市の重要な施策であり廃止、休止はできない。廃止休止の場合には、市が目指す市民の安心安全で快適な道路環境での生活に支障をきたしてしまふ。																
	④ 類似事業との統合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 ・「国立市南部地域整備基本計画」を計画的に進めるため、平成29年7月に組織改正があり南部地域まちづくり課(計画整備係)、道路交通課(管理係・整備係)の連携により将来の実現に向けて事業を進めています。																
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 ・平成30年度より、本事業を進めるうえで他部署との連携により事業にあたることとなったことから、事業費の削減どころか増額を必要とする時期が推測される。また、これまででも南部地域事業に対して道路占用料や都よりの補助金を活用し整備を進めてきていることから引き続き歳入確保に努めていきたい。さらに、道路及び水路の整備基金も活用した整備をすることで実現に向けた事業ができる。																
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 ・狹隘道路の拡幅整備について、単発的な拡幅整備案件が増大してくると推測できる。このため、人件費の削減余地はない。																
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 ・南部地域は、都市基盤整備が遅れている地域であり、「国立市南部地域整備基本計画」に基づき整備を進めることで南部地域の市民だけでなく全地域の市民の利用もできることから公平公正である。																
	事業の実施に当たり、ソーシャル・インクルージョンの理念を踏まえ、多様性への配慮はなされているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切に実施している・一部実施している ⇒【以下に理由(具体的な取組内容)を記入】 <input type="checkbox"/> 実施していない ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 評価になじまない バリアフリー及びユニバーサルデザインを取り入れた整備を行う。																
この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか?)(裁量性の大きい事業のみ記載)	・本事業を進めるにあたり長年の案件で対象者からは早急に整備を進めてもらいたい意見はあった。現状のギャップを解消するため、本事業に取組み始めている。																	
この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか?(裁量性の大きい事業のみ記載)	・本事業を進めることで、南部地域の市民はもちろん全地域の市民の道路利用ができることから役立つものと考えられる。																	
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)	(1) 担当課評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 公共関与と妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table> (2) 全体総括(振り返り、反省点) ・本年度より、「国立市南部地域整備基本計画」を他部署との連携を進めていくことから、これまで以上に成果が期待できるものと考えられる。		① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり				
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) ・「国立市南部地域整備基本計画」を進めるにあたり、他部署との分担整理ができたことから順次作業を進めていく。	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上			○	維持			×	低下	×		×
	削減	維持	増加															
向上			○															
維持			×															
低下	×		×															
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	・本事業を進める初期段階において他部署の作業であるが、道路拡幅する沿道地権者への説明や理解をいただくことが最重要課題と考えている。																	
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?	・10年間の優先整備路線(6路線)を挙げていることから、先ずこの6路線が整備できた時に目標に達成できるものと考えられる。																	

評価実施 平成 31 年度	事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)					
事務事業名	No. 32	私道整備事業	所属部	都市整備部	所属課	道路交通課
政策名	No. 7	7 都市基盤	所属係	維持係	課長名	中島 広幸
施策名	No. 20	基本施策20 道路の整備と適正管理	裁量性	裁量性が大きい事業		
予算科目	会計 一般	款 0: 8	項 0: 2	目 0: 1: 3	事業コード 8: 0: 0	法令根拠 私道整備に関する条例
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	→ (年度 ~ 年度)		

<p>事務事業の概要</p> <p>事業の具体的な手順及び詳細(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 私道整備に関する条例に基づき、毎年予算の範囲内で簡易舗装工事(アスファルト舗装か砂利舗装)を行う。 (事務の内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民から私道整備の条件に合っているのかどうかの相談を受ける。 2. 整備条件に合うかどうかの調査を行う。 3. 整備条件に合う場合は申請を受け付ける。整備条件に合わない場合は、その旨を連絡する。 4. 受け付けた申請案件の優先度を付ける。 5. その優先度に基づき、予算の範囲内で出来る整備を決め、通知を行う。 6. 簡易舗装を行う。 <p>(整備の条件) ・公道から公道へ通り抜けしている場合は幅員2m以上 ・一方が公道に面している場合は幅員3m以上かつ延長30m以上で利用している住宅が5件以上 ・私道の所有者と利用者全員の同意が必要</p>	<p>この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)</p> <p>活動実績及び事業計画 平成30年度の実績(平成30年度に行った主な活動を具体的に記載) 私道整備路線~1路線について路盤工事まで行い平成30年度アスファルト舗装工事を実施</p> <p>平成31年度の事業計画(平成31年度に計画している主な活動を具体的に記載) 前年度と同様に実施していく</p>
--	--

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的
この事業を実施する背景・課題等(なぜこの事業を行うのか)

事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する)
私道とその利用者

この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道すじ(裁量性の大きい事業のみ記載)
生活に必要な都市基盤が整備され、住みやすい環境になる。

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)(A)	平成30年度 (決算見込み)(B)	平成31年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	調査件数	件	0	1	1	1	1		0
	申請受付件数	件	1	1	0	1	1		1
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	H29対象指標見直し実施	路線	203	202	201	180	180		-21
									0
③ 成果指標 (事務事業の達成度を表す指標)		路線	172	174	175	176	177		1
									0
④ 上位成果指標 (施策の達成度を表す指標)	生活に必要な都市基盤が整備されており、	%							0
	住みやすい環境であると感じている市民の割合	%							0

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)(A)	平成30年度 (決算見込み)(B)	平成31年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
人に係るコスト	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	0
	延べ業務時間	時間	100	100	100	100	100	0
	正規職員人件費計(C)	千円	500	500	500	500	500	0
	再任用職員従事人数	人						0
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
物に係るコスト	嘱託職員従事人数	人						0
	延べ業務時間	時間						0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0
	人に係るコスト計(F)	千円	500	500	500	500	500	0
	物件費	千円						0
	うち委託料	千円						0
維持補修費	千円						0	
物に係るコスト計(G)	千円	0	0	0	0	0	0	
移転支出的なコスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円				1,060	2,000	1,060
移転支出的なコスト計(H)	千円	0	0	0	1,060	2,000	0	
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	500	500	500	1,560	2,500	0	
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0	
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-500	-500	-500	-1,560	-2,500	0	
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関係と性評価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか? 土地所有者と居住者全員の承諾が得られないため、現在の条件に該当するが、まだ未整備箇所があるので向上余地がある。
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? いずれ条件を緩和してもらえようと考えている私道利用者(所有者)への説明。通り抜けの私道整備については、公益の増進に役立っている。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか? 類似事業等なし。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらなる歳入を確保できないか? 整備費用の一部を土地所有者が負担することにより事業費を削減できる。ただし、過去に整備したアスファルト舗装が老朽化し、再整備する場合は事業費が増大する。
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?(アウトソーシングなど) 整備は請負工事で実施しているので、人件費の削減余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っているか?不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 私道なので本来は土地所有者が受益者負担するべきであり、公平・公正とはいえない。特に行き止まり道路については受益が一部の関係者のみに限定されている。

事業の実施に当たり、ソーシャル・インクルージョンの理念を踏まえ、多様性への配慮はなされているか?
適切に実施している・一部実施している ⇒【以下に理由(具体的な取組内容)を記入】 実施していない ⇒3 改革・改善方向の部に反映
 評価になじまない

この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか?)(裁量性の大きい事業のみ記載)

この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか?(裁量性の大きい事業のみ記載)

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与と妥当性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
④ 公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載
 事業のやり方改善(有効性改善) 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 事業統廃合・連携 縮小 休止 廃止
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
 公共性という観点では通り抜けしている私道のうち老朽化している路線の再整備を優先するべきであるが、
 一部受益者負担という手法もあるが、その場合は事務が煩雑化し人件費の増大が予想される。
 土地所有者が整備を行い、市がその費用の一部を補助するという手法も考えられる。
 また、一定条件の私道整備は完了したので、事業廃止という選択肢もある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策
条件を緩和する場合(延長条件緩和、再舗装)は財源の確保が絶対条件であり、また、事業費が限定される場合は優先順位をどうするかという問題が生じる。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?